

「水溶液の性質をしらべよう」 ～リトマス紙による仲間分け～

小学校6学年の「水溶液の性質をしらべよう」の単元では、「水溶液には酸性、アルカリ性及び中性のものがあること」「水溶液には気体がとけているものがあること」「水溶液には金属を変化させるものがあること」を学習のねらいとしています。しかしながらこの単元は、児童生徒にとっては「覚えることが多くて難しそう」「あまり生活に関係がない」との印象があるようで、実験は楽しくてもなかなか定着しにくいことがうかがえます。

そこで、身近なものに視点を当てて、生活の中にあるいろいろな水溶液等の性質を調べてみましょう。

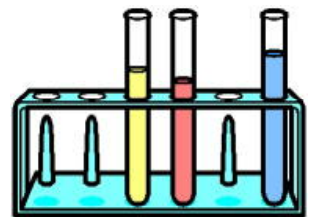
まず、「リトマス紙」について確認します。

リトマス紙は、リトマスゴケという地衣類（菌類と藻類が共生した生物体）からとれる紫色の色素を、ろ紙にしみこませたものです。リトマスゴケは日本には生えていません。アフリカのモロッコなどの大西洋沿岸の岩に生えているそうです。

リトマス紙には、青色と赤色の2種類があり、酸性の水溶液では、青色リトマス紙が赤く変化し、アルカリ性の水溶液では、赤色リトマス紙が青く変化します。どちらのリトマス紙の色も変化しないものは、中性の水溶液です。

さて、家にあるさまざまな水溶液（厳密には、水溶液でないものも多くあります）の性質を、リトマス紙を使って調べてみませんか？

「ヤクルトって、乳酸菌飲料というけど、酸性なのかな？」「シークワーサージュースは？」など・・・。
色の濃いものは水で薄めると変化が見やすいですよ。



{ 酸性
(青リトマス→赤) }



{ 中性
(どちらも変化なし) }



{ アルカリ性
(赤リトマス→青) }



(文責：玉村かおり)